

経済情勢

(11月の経済指標を中心に)

全国、中国ともに、景気は、一部に足踏みがみられるものの、緩やかに持ち直している。先行きについては、米国の通商政策の影響、日中関係の動向、金融市場の変動、物価上昇などによる経済活動への影響が懸念される。

(全国)

個人消費	一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる
住宅投資	新設住宅着工戸数（11月）は前年を下回った
設備投資	機械受注（11月）は、前年を下回った
公共投資	公共工事請負額（11月）は前年を下回った
輸出	輸出金額（11月）は前年を上回った
生産動向	横ばい圏内で推移している
雇用情勢	改善の動きに足踏みがみられる

(中国)

個人消費	一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる
住宅投資	新設住宅着工戸数（11月）は前年を下回った
公共投資	公共工事請負額（11月）は前年を下回った
輸出	輸出金額（11月）は前年を上回った
生産動向	低水準にあるものの持ち直しに向けた動きがみられる
雇用情勢	改善の動きに足踏みがみられる

1. 景気動向指数・景気ウォッチャー調査(11月)

景気動向指数(全国CI)は、一致指数は3か月ぶりに低下、先行指数は7か月連続で上昇した。

景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は、全国は7か月ぶりに低下、中国は4か月連続で上昇した。

● 景気動向指数(CI)

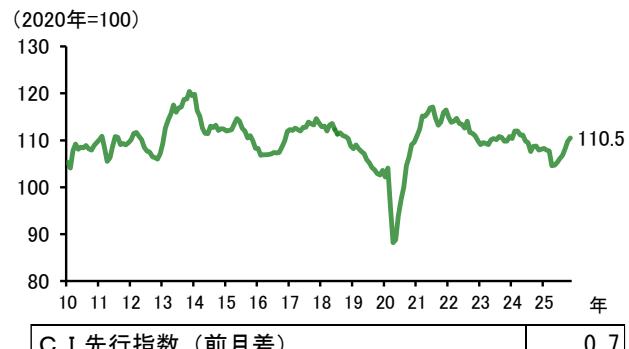
(一致指数)

- 115.2 (前月差▲0.7ポイント)と3か月ぶりに低下。



(先行指数)

- 110.5 (前月差+0.7ポイント)と7か月連続で上昇。



C I 一致指数 (前月差) ▲0.7

C I 先行指数 (前月差) 0.7

指標名	寄与度
鉱工業生産指数	▲0.46
商業販売額(卸売業)	▲0.42
鉱工業用生産財出荷指数	▲0.35
耐久消費財出荷指数	▲0.18
商業販売額(小売業)	▲0.09
有効求人倍率(除学卒)	▲0.04
労働投入量指数(調査産業計)	0.01
営業利益(全産業)	0.11
投資財出荷指数(除輸送機械)	0.33
輸出数量指数	0.39

指標名	寄与度
消費者態度指数	0.71
新規求人件数(除学卒)	0.40
マネーストック(M2)	0.28
東証株価指数	0.13
最終需要財在庫率指数(逆)	0.06
中小企業売上げ見通しDI	0.03
鉱工業用生産財在庫率指数(逆)	▲0.11
日経商品指数(42種総合)	▲0.17
新設住宅着工床面積	▲0.74
実質機械受注(製造業)	
投資環境指數(製造業)	

注: 1. 景気動向指数(CI)は景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としている。資料は内閣府「景気動向指数(速報)」。

2. 景気動向指数とは、生産、雇用など重要かつ景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の現状把握および将来予測に資するためを作成されたもので、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く逆行指数の3つの指標がある。

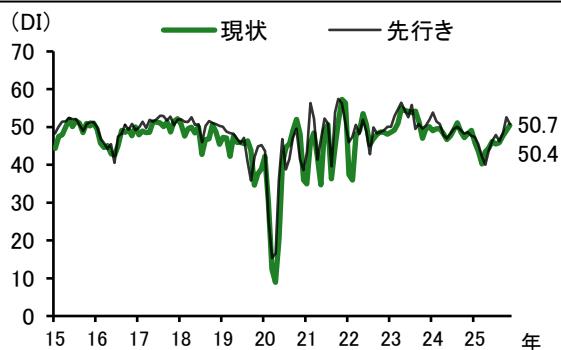
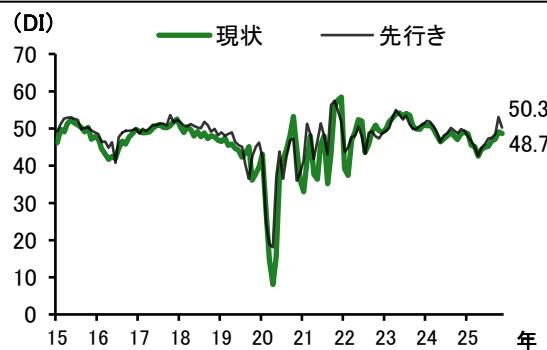
● 景気ウォッチャー調査(DI)

(全国)

- 現状判断DIは、48.7 (前月差▲0.4ポイント)と7か月ぶりに低下。
- 先行き判断DIは、50.3 (前月差▲2.8ポイント)と7か月ぶりに低下。

(中国)

- 現状判断DIは、50.4 (前月差+1.4ポイント)と4か月連続で上昇。
- 先行き判断DIは、50.7 (前月差▲1.9ポイント)と3か月ぶりに低下。



注: 1. 景気ウォッチャー調査は、地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とするすることを目的としている。資料は内閣府「景気ウォッチャー調査」。

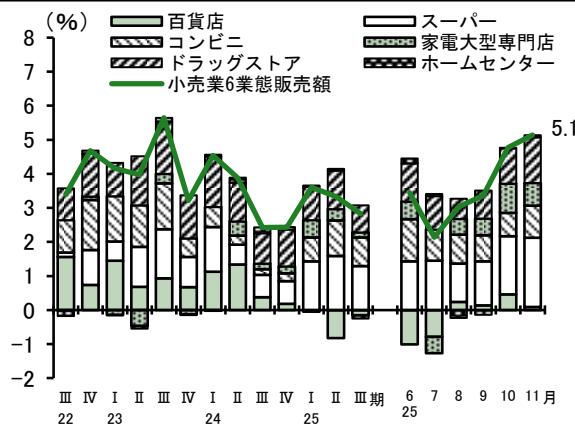
2. 季節調整値

2. 個人消費（11月）

全国、中国ともに、一部に足踏みが残るもの、持ち直しの動きがみられる。

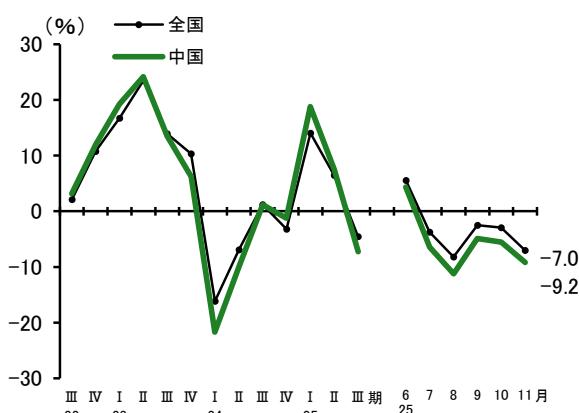
● 小売業6業態販売額 [対前年伸び率]

(全国) スーパー、ドラッグストアなどを中心に増加し、48カ月連続で前年比プラス（前年同月比+5.1%）。買い上げ点数の減少など節約志向がみられるものの、コメなど食料品価格の高騰が販売額を押し上げている。気温の低下に伴い季節商品等が伸長したほか、前年同月に比べ休日が2日増だったこともプラスに寄与した。



● 新車登録・届出台数（乗用車）[対前年伸び率]

- (全国) 小型乗用車が増加したものの、普通、軽乗用車が減少し、5カ月連続で前年比マイナス（前年同月比▲7.0%）。前年同月に比べ登録稼働日が2日減ったことに加え、新型車の市場投入が少なかったことや、一部メーカーでの納期の長期化などが押し下げの要因となった。
- (中国) 小型乗用車が増加したものの、普通、軽乗用車が減少し、5カ月連続で前年比マイナス（同▲9.2%）。全国同様、登録稼働日の2日減に加え、新型車の市場投入が少なかったことや、納期の長期化などが押し下げの要因となった。

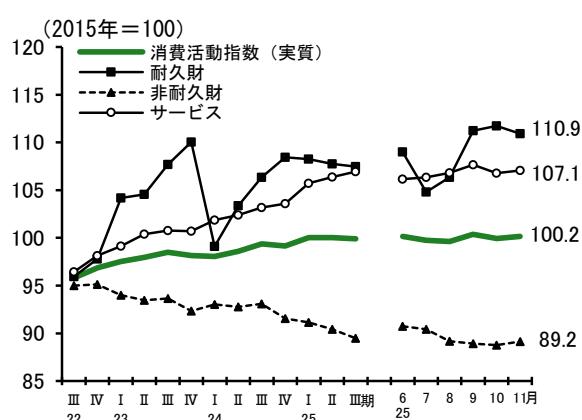


資料：中国運輸局「新車登録・届出状況」、
(一社) 全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売統計」

● 消費活動指数（実質）

(全国)

- 消費活動指数（季節調整済）は100.2（前月比+0.2%）と、2カ月ぶりに前月を上回った。
- 耐久財は、パソコンなど家電が好調だったものの、自動車が低調に推移したことなどから、前月を下回った。
- 非耐久財は、衣料品や食料品が好調に推移したことなどから、前月を上回った。
- サービスは、娯楽業や飲食業などが好調に推移したことなどから、前月を上回った。



注：1. 季節調整済指数
2. 消費活動指数の形態別ウエイトは、耐久財8.9、非耐久財40.5、サービス50.7
資料：日本銀行「消費活動指数」

3. 住宅投資（11月）

新設住宅着工戸数は、全国、中国ともに前年を下回った。

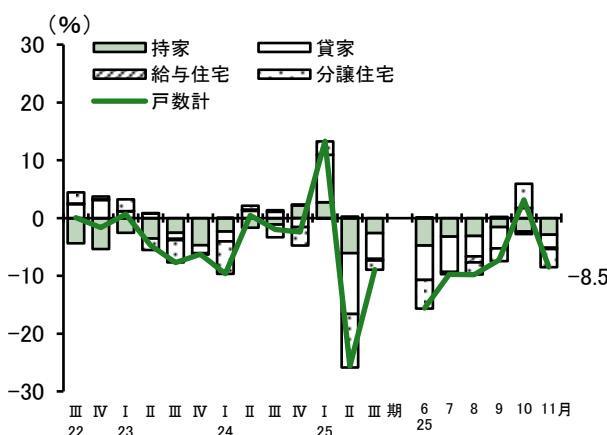
● 新設住宅着工戸数 [対前年伸び率]

(全国)

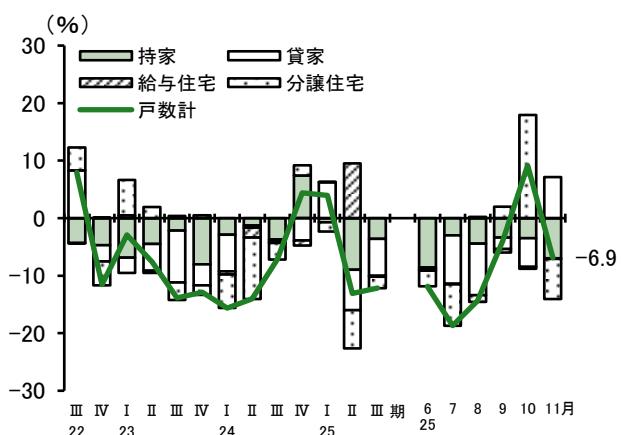
持家、分譲住宅、貸家、給与住宅がいずれも減少し、2カ月ぶりに前年比マイナス（前年同月比▲8.5%）。

(中国)

貸家が増加したものの、持家、分譲住宅、給与住宅が減少し、2カ月ぶりに前年比マイナス（前年同月比▲6.9%）。



注：持家、貸家、給与住宅、分譲住宅は、新設住宅着工戸数の対前年伸び率に対する利用関係別寄与度
資料：国土交通省「建築着工統計調査報告」



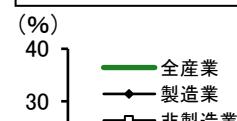
4. 設備投資・公共投資（11月）

機械受注（全国）は、製造業は前年を下回ったものの、非製造業は前年を上回った。
公共工事請負額は、全国、中国ともに前年を下回った。

● 機械受注額 [対前年伸び率]

(全国)

- 14カ月ぶりに前年比マイナス（前年同月比▲6.4%）。
- 製造業（同▲13.8%）は、9月に大型案件が集中した反動等で、化学、造船業、はん用・生産用機械などが減少したことから、14カ月ぶりに前年比マイナス。
- 非製造業（同+0.7%）は、情報サービス業などが減少したものの、運輸業・郵便業や農林漁業などが増加したことから、2カ月連続で前年比プラス。



5. 輸出・輸入(11月)

輸出金額は、全国、中国ともに前年を上回った。

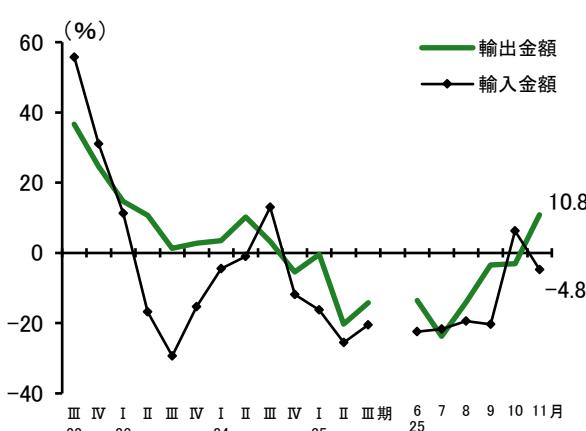
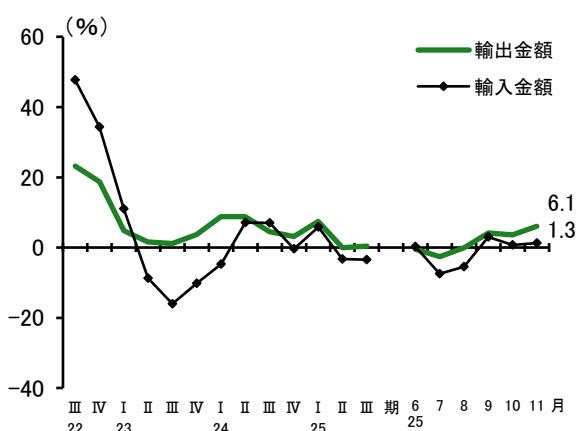
● 輸出・輸入金額 [対前年伸び率]

(全国)

- 輸出金額は3カ月連続で前年比プラス(前年同月比+6.1%)。円安への振れ等が輸出金額を押し上げたほか、欧米向けの出荷増がプラス要因となった。品目別にみると、アジア・中東向けの自動車などが減少したものの、半導体等電子部品や、医薬品などが増加した。
- 輸入金額は3カ月連続で前年比プラス(同+1.3%)。液化天然ガスや石炭などの鉱物資源が減少したものの、欧洲からの原動機や、アジアからの半導体等電子部品などが増加した。

(中国)

- 輸出金額は10カ月ぶりに前年比プラス(前年同月比+10.8%)。鉄鋼などが減少したものの、船舶(貨物船)、自動車、半導体等製造装置などが増加した。米国の追加関税が引き下げられたことや新型モデルの需要増を背景に自動車が持ち直しつつあることなどからプラス転換となった。
- 輸入金額は2カ月ぶりに前年比マイナス(同▲4.8%)。非鉄金属や液化天然ガスなどが増加したものの、石炭や原粗油などが減少した。



注：1. 輸出金額、輸入金額は円ベース 2. 輸出確報；輸入速報(9桁)
資料：財務省「貿易統計」、神戸税關「中国圏・各県貿易統計」

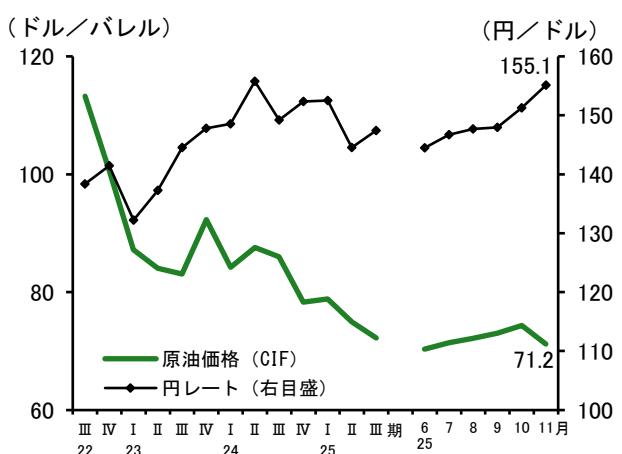
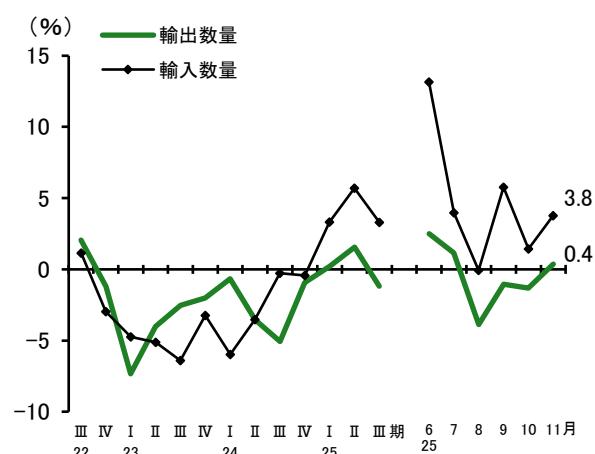
● 輸出・輸入数量 [対前年伸び率]

(全国)

- 輸出数量は4カ月ぶりに前年比プラス(前年同月比+0.4%)。
- 輸入数量は3カ月連続で前年比プラス(同+3.8%)。

● 原油価格・円レート

- 原油価格は71.2ドル/バレルと前年に比べ7.0ドル低下(前月に比べ3.2ドル低下)。
- 円レートは155.1円/ドルと前年に比べ1.4円の円安(前月と比べると3.8円の円安)。



注：1. 輸出数量、輸入数量とも2015年=100とした指数 2. 輸出確報；輸入速報(9桁)
4. 円レートは東京外為替市場の銀行間中心レートの月中平均値
資料：財務省「貿易統計」

6. 生産動向（11月）

(全国) 横ばい圏内で推移している。

(中国) 低水準にあるものの持ち直しに向けた動きがみられる。

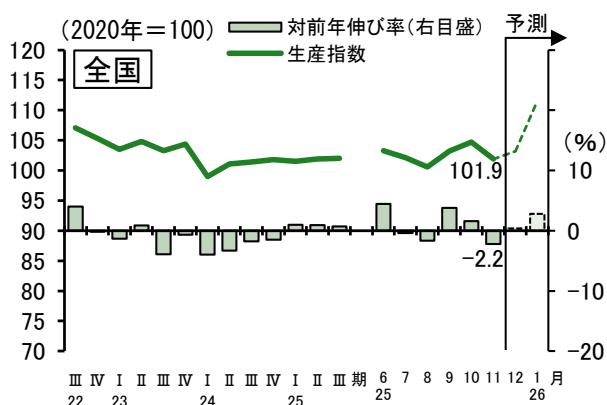
● 鉱工業生産指数（総合）

(全国)

- 生産指数（季節調整済）は、101.9（前月比▲2.7%）と3カ月ぶりに前月を下回った。半導体等製造装置を中心に汎用・生産用・業務用機械などが上昇したものの、ノート型パソコンなどの電気機械や自動車など幅広い業種が低下した。
- 生産指数（原指数）は前年同月比▲2.2%と3カ月ぶりにマイナスとなった。

(中国)

- 生産指数（季節調整済）は、102.2（前月比▲0.1%）と4カ月ぶりに前月を下回った。集積回路を中心に電気機械が上昇したほか、自動車などが上昇したものの、化学や鉄鋼などが低下した。
- 生産指数（原指数）は、前年同月比▲2.3%と7カ月連続でマイナスとなった。



7. 雇用情勢(11月)

全国、中国ともに、改善の動きに足踏みがみられる。

● 完全失業率、有効求人倍率、新規求人倍率

(全国)

- ・完全失業率は2.6%（前月差±0.0ポイント）と横ばい。
- ・有効求人倍率は1.18倍（同±0.00ポイント）と横ばい。
- ・新規求人倍率は2.14倍（同+0.02ポイント）と5カ月ぶりに上昇した。

(中国)

- ・有効求人倍率は1.31倍（前月差▲0.02ポイント）と7カ月連続で低下した。
- ・新規求人倍率は2.26倍（同▲0.04ポイント）と3カ月連続で低下した。

